
ハヤテのごとくが幻想郷入り！？

ヒルク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハヤテのごとくが幻想郷入り！？

【Nコード】

N8118Y

【作者名】

ヒルク

【あらすじ】

なぜかナギの気まぐれで幻想入りしてしまったハヤテ いったいハヤテに何が起こるのか！

ハヤテ、幻想入り！？（前書き）

こんにちは 今回が初めての投稿なのでいろいろ変かも知れませんが、よろしければ読んでくださいお願いします。

ハヤテ、幻想入り!?

ここは、三千院家のお屋敷。ここでは借金まみれの執事が働いている。

「おい！ ハヤテー！」

そしていつものようにお嬢様がその執事を呼ぶ声が響いている。

「どうしました！？ お嬢様！」

「今から幻想郷に行くぞ」

「無理ですよお嬢様、そもそも幻想郷ってゲームじゃ・・・」

「大丈夫だ、こういう時は大抵有名なスキマ妖怪が現れて」

ハヤテ said o

いきなり何を言うかと思ったら・・・でも何故急にとって部屋を見渡したら分かりますね、原作ゲームに漫画

東方関係の物ばかり・・・「さあ！早く出てきなさい！ ゆかりん！」

「私のこと呼んだかしら？」

「私のこと呼んだかしら？」

「うわあ！ほ、本当に出た！」

「おお！やっぱりいたのか！では、今すぐ私とハヤテを幻想郷に連れていくのだ！」

「ふふふ、良いわよ。でも死んでも責任は取らないわよ」

え、死ぬ可能性あるんですか？な、何だか怖いな・・・

「それじゃあ行くわよ！」「う、うわああああ！」

「んっ？ここは一体・・・！？お嬢様は！？お嬢様！どこですか！
？お嬢様！」

辺りを見渡しても見えない、一体どこに！？

「おーい！ハヤテー！」

「お、お嬢様！？何をなさってるんです！そんな神社で！」

「悪かったわね。そんな神社で」

な、何だろう何だかシンパシーを感じる

「あとう、貴方はいったい・・・」

「私はこの博麗神社の巫女よ！」

「こいつはハヤテと同じですっごい貧乏なのだ！」

「誰が貧乏よ！だれが！」

なるほど、だからシンパシーを感じたのか・・・

「ところで、幻想郷と言ったら能力だが。私にあるかどうかみてくれ！！！」

「ないわよ、そこの執事ならあるけど」

え、僕にですか！？でも能力っていったいどんな能力があるんでしょうか

「どんな能力なのだ？」

「運命を変える程度の能力よ」

「なにっ！レミリアと同じ能力なのか！」

「誰ですか？お嬢様。」

「紅魔館の主だ！ そうだ・次は紅魔館に行こう！行くぞ！ハヤテ！

「待ってくださいよーお嬢様ー！」なぜか幻想郷入りしたハヤテの運命は！？

ハヤテ、幻想入り！？（後書き）

いかがでしたでしょうか。コメントしていただければ嬉しいです。おかしな所がありましたら教えて下さいお気軽に入り登録して頂ければ嬉しいです。よろしければいいのでお願いします

ハヤテが次は紅魔館へ!?(前書き)

第二話目です。一話を読んでもくれた方はありがとうございます。感想などをしてくれたら嬉しいですよ。

ハヤテが次は紅魔館へ!?

「で、どこにあるのか知ってるんですか？お嬢様」

「いや、知らん」

「えー！じゃあどうするんですか！」

「まあ、ウロウロしてたら見つけれられるだろ」

はあ、そんな薄情な・・・あれ？あんな所にお屋敷が

「お嬢様、あそこじゃないですか？」

「おお！あそこだ！早速中に入ろう！」

「ちょっと待ってくださいよーお嬢様ー！」

「よーし早速入ってみよう！」

「待って下さいお嬢様！そこに門番が！」

何だろうこの門番からは殺気を感じない

「グーむにゃむにゃ」

「まさか、目を開けたまま眠ってるー！」

「よし！今がチャンスだ！行くぞ！ハヤテ！」

「待って下さい！お嬢様・・・んっ？」

シュツカカツ

これはナイフ？一体どこから・・・

「私のナイフを避けるなんてあなた、少しはやるようね」

「あなたはいったい！」

「私は十六夜咲夜。紅魔館の主、レミリア様の従者です」

「あっ親切にどうも・・・じゃなーい！何で急にナイフを投げるんで

すか！」

「まあ、細かいことはいいわついてきなさいレミリア様の所まで案内してあげるわ」

「おお！そうか！じゃあ行くぞハヤテ！」

「ちよつと勝手に行かないでくださいよーお嬢様ー！」

「レミリア様、綾崎ハヤテを連れてきました。」

「そう、入っていいわよ」

「失礼します。」

「あれ？何で僕の名前を？」

「レミリア様に知らない事は無いのよ。」

「綾崎ハヤテ、あなたをここに連れてきたのはあることをしてほしいのよ」

「あること、とは？」

「それは・・・」

いったいレミリアの言うあること、とはなんなのか 次回その秘密が明らかに！

ハヤテが次は紅魔館へ!?(後書き)

いかがでしたでしょうか。感想、指摘などをくれたら嬉しいです。
では、次回も頑張りますのでよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8118y/>

ハヤテのごとくが幻想郷入り！？

2011年11月24日20時46分発行